

令和4年度
第1回家庭教育支援連絡会会議録

1 日時

令和4年7月22日（金）午後3時～4時

2 場所

市役所議会棟 5階 第2委員会室

3 出席委員

堀委員長、春日副委員長、山田委員、笠間委員、鍵崎委員、新宮委員、
原委員、東田委員、本水委員

4 欠席委員

甲斐委員、島津委員、岩本委員

5 事務局

大野課長、三河係長、伴、川上

6 会議次第

(1) 開会

- ① あいさつ
- ② 自己紹介
- ③ 委員長、副委員長選出（堀委員長・春日副委員長に決定）

(2) 案件

- ① 家庭教育学級について
- ② 寝屋川市家庭教育サポートチームについて
- ③ ねやがわ子どもフォーラムについて
- ④ その他・情報交換

会議録

1 開会

青少年課三河係長より連絡会の概要説明の後、各委員の自己紹介を行うと共に委員長、副委員長の選出を行った。

2 案件

(1) 家庭教育学級について

家庭教育講座

全 24 小学校で開催する。

講座の内容は、SNS など「家庭での情報モラル」が人気。現在、各校に開催依頼を送付し、回答待ちの状況。

(2) 家庭教育支援者スキルアップ講習会

市内の家庭教育支援者、またこれから家庭教育支援者として活動する方を対象に、スキルアップを目的として実施。講習会受講者の中から、次年度の「家庭教育サポーター」の希望者を募り、活動していただく事を目的としている。時期は令和 4 年 12 月と考えているが、内容は検討中。

3 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

家庭教育サポーターの活動実績について説明。

今年度も市内 24 小学校に各 1 名ずつ、家庭教育サポーターを配置。

地域や関係機関と連携しながら、保護者のよき相談相手になり、家庭の健全化を図り、子どもの生活改善につながるよう活動していく。

4 ねやがわ子どもフォーラムについて

- ・開催概要の説明（開催日：令和 5 年 2 月 12 日（日）を予定）
- ・家庭教育支援連絡会委員の所属団体にも周知を依頼していく。

5 その他・情報交換

【学校】

新型コロナウイルスに翻弄されている。家庭訪問すらできていない状況が続き、個人懇談も衝立を立てて対応している。

全児童が集まらない、地域の方に来ていただけない事が3年続いたが、行動制限が緩和され、徐々に活動できると思うが、マスク着用など学校生活にストレスを感じているであろう子ども達がかわいそうだ。いつになれば普通に生活できるようになるのか。

学校では、校内委員会があり、ヤングケアラーの校内研修を行った。

少子化の中、兄弟が4、5人と多く、兄弟間に年齢差もあり、上の子が下の子の面倒を見るために、家事都合で休む子が出てくる。親に命じられて、嫌々休むケースと、学校に行かなくていいなど、休むケースがある。

家庭教育サポーターや市の人材もいるが、家庭内の事で、どこまで関わってよいのか模索している。学校に行くべき子が行けない状況を改善出来たらと思う。

【保育所】

この2年間行動制限で色々な経験をさせてあげられなかったが、今年何とか合宿ができ、プールにも入ることができた。

問題を抱えた家庭、愛着障害の子は大きくなるにつれて、構ってほしい、

見てほしいと大人の気を引く行動がでて、周りの子や大人にとってよくない行動で見せたり、大人に向かって暴言を吐くこともある。

母親じゃなくても、安心できる大人が側にいることで変わっていきける。

子ども達は、日々元気に活動しているので、その姿を支えに頑張っている。

【幼稚園】

行動制限がなくなり緩和されるのかと思っていたが、感染者が増加傾向にあり、感染状況を見ながら子ども達と関わってきた。

今年はプールにも4回入ることができ、子ども達も嬉しそうだった。

【民生委員・児童委員協議会】

民生委員の主任児童委員として、地域の子育てサロンの開催に関わっている。

コロナの感染状況が増えだしたが、子育てサロンは徐々に再開している。運営スタッフは、参加者があるのか気になるが、昨日も、急遽場所

を変更したにもかかわらず、子ども 12 人、親も入れると 20 人が来てくれた。

この感染状況の中、運営側はありがたいのだが、参加者は笑顔で参加してくれた。

【家庭教育サポーター】

小学 2 年生は、今年初めてプール体験ができた。プールが好きな子は、登校しぶりがあっても、喜んで登校することができた。プールが嫌いな子は、プールを習っている子との格差が広がってしまう。

母親同士のつながりも、コロナ禍でできていないのではないか。しゃべりたい、関わりたい、お母さん同士が集まるのは大事だが、現在の 1 年生、幼稚園の時にコロナで交流関係が作りにくく、お母さんも孤立していた。コロナ禍の母のストレスが子どもに影響があるのか、子ども達は落ち着きがない。

コロナが明ければ大丈夫ではない気がする。何か力になればと思い、支援をしている。